

< 自転車の安全利用促進委員会 セミナーレポート >**近畿の教職者が自転車通学の事例問題点を共有
「自転車通学の安全性向上を考えるセミナー」を関西で初開催！**

自転車の安全安心を追求する「自転車の安全利用促進委員会」は、2015年自転車関連事故死亡者数が最も多かった大阪市北区のAP大阪梅田茶屋街町で、近畿の教職者を対象とした「自転車通学の安全性向上を考えるセミナー」を2016年12月10日(土)に開催いたしました。

本セミナーは自転車の使用について「きちんと教育したいが、どんな教育をすればいいのかわからない」といった教職者の声や「教育の機会が少なく感じる」といった保護者の声を受けて本年から開催しています。埼玉・千葉での開催に続き、今回の開催で3回目です。

今回のセミナーには、大阪をはじめとした近畿各県から合計40名の教職者が参加。「高校生の自転車事故が多い大阪の現状、道交法改正・自治体の保険加入義務化など、めまぐるしく変わる自転車事情」や、「自転車通学の安全性を向上させるにはどのような視点が必要なのか」について、実際に成果を上げている大阪府下の教職者、自転車の安全利用促進委員会のメンバー長谷部雅幸氏（公益財団法人シマノ・サイクル開発センター 自転車博物館 事務局長）、遠藤まさ子氏（自転車ジャーナリスト）より説明させていただきました。

また、講演後ろには意見交換会をおこないました。会では各校の自転車通学について都道府県の垣根を越えて、課題や各校の取り組みについてお話しが盛り上がり、大阪の高校に勤務する教職者からは「生徒に自分ゴトとして自転車通学をとらえさせていないのが課題。生徒・教職者共に時間がない中、効果的かつ効率的な対策が必要。講演だけでなく、他府県の先生方とお話しできたので、今日の内容を月曜日から早速活かしていきたい」とお話しされていました。

登壇者の自転車ジャーナリスト遠藤まさ子さんは、「ルールマナー指導など、どうやって学生を指導すれば良いのかという自転車通学指導のソフト面と、BAAマークなど自転車自体の安全性を考えた自転車の選び方や、メンテナンスを意識したハード面の2つの軸で通学指導する必要があります。また、実施までの負荷はあるものの、まずは一歩踏み出して、指導方法をマニュアル化・システム化することで、恒常的な取り組みをおこなっていきましょう。さらに、警察や自治体などまわりの団体を巻き込むことで、先生の負担を減らしながらも専門性を担保する。この3つを自転車通学指導のポイントとして覚えていただきたい」と、近畿各件から集まった教職者を前にコメントされました。

